

一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録

日時	平成27年8月12日（水）	13:30～15:30
場所	甲州市市民文化会館	
出席者	134名	
	（内訳）PTA関係者	110名
	市町村教育委員会関係者	24名
	一般	0名

1 スマートフォン・インターネットの利用方法について

（質問・意見）

- ・一宮中学校のPTAでは、家庭内でのスマートフォンやインターネットの利用に関するルールづくりを進めていくことになり、研修会や講習会の実施について漠然とした話が出ているが、教育委員会ではスマートフォンやインターネットの利用については積極的に取り組んでいくという話を聞いたことがあるが、具体的にはどのような取組があるのか。
- ・取組の事例等の紹介など相談する窓口がある場合は教えてほしい。

社会教育課長

- ・昨年度、各家庭でスマートフォンの利用についてルールを決めてもらう取組を県内の3つのPTAの団体に依頼して実施した。その際、事務局を社会教育課で行った。
- ・社会教育課には青少年保護育成担当という担当があって、山梨青少年健全育成県民会議を担当しており、その中で教師と保護者のためのインターネット安全利用研修会を開催している。
- ・7月31日には小学校の教員と保護者を対象にしたスマートフォンの利用についてのワークショップをNPO法人に青少年センターで依頼して行った。
- ・また、8月10日には同じく青少年センターで高校生を対象にネットシンポジウムを開催した。各高校から2名の代表を派遣してもらい、基調講演後に生徒による話し合いを行い、その結果を学校に持ち帰り、生徒が中心となってスマートフォンのルール作りを進めてもらいたいという内容である。
- ・このような取組を行っているが、各学校、特にPTAが取組を実施するうえで講師の派遣等、相談がある場合には社会教育課の青少年保護育成担当に連絡をしていただきたい。

2 放課後の子育て支援について

（質問・回答）

- ・学童保育について、私の家庭の話ではあるが、共働きをしてはいるが、妻が子どもの宿題の面倒を見たいということで、午前9時から午後1時までの勤務として学童保育には預けていない。
- ・夏休みのような長期の休みの場合は、午前9時から午後1時までの間は、子どもだけで家庭に残ることになるので学童保育の利用について市役所に相談した。
- ・市役所からは長期休暇中のみの利用は認められない。そのほか3時以降までの勤務であることや年間を通しての利用などの条件があるようで、学童保育の利用ができないことから、春日居児童館へ子どもを預けている
- ・学童保育は学校によってはあるところと無いところがあり不公平に感じることもある。
- ・県の教育委員会に長期休暇中だけ学童保育が利用できないことについて相談されること

があると思うが、このような状況に対してどのように対応しているか事例があったら教えてほしい。

社会教育課長

- ・学童保育については福祉保健部の子育て支援課という部署が担当しており、また、実施主体は市町村であるため、子育て支援課に相談しても、具体的な相談は市町村へというお願いになってしまう。
- ・質問に対する回答でなくて大変申し訳ないが、社会教育課では放課後子ども教室推進事業という事業を実施している。これは学童保育とは少し異なるが、土日や放課後、長期休暇中に地域の方々に講師になっていただき、子どもたちを対象に様々な教室を開催したり、宿題の面倒を見たりする取組となっている。
- ・市町村へ放課後子ども教室の実施を要望してもらえれば、県から優先的に補助金を交付するので、学童保育の対象とならない子どものケアができると考えている。

3 スクールカウンセラーの配置増について

(質問・回答)

- ・石和南小の教員は子育てについて相談すると親身になって話を聞いてくれる。また、相談の内容によってはスクールカウンセラーを紹介されることもある。
- ・一昨年度の石和南小学校にはスクールカウンセラーが配置されていて、特定の曜日に学校へ出勤し、保護者からの相談に対応していた。
- ・県内全ての中学校にはスクールカウンセラーが配置されていると聞いているが、子育ての悩みは子どもが小さい時から始まっているので、小学校についても全ての学校にスクールカウンセラーを配置してほしい。

長田教育委員長

- ・私もスクールカウンセラーの1人であり、昨年度まで峡東地域の小学校を担当していたが、今年度からは勤務していた小学校でスクールカウンセラーの配置がなくなったので、スクールカウンセラーの仕事はできなくなった。
- ・4年前に教育委員となった時から県内の全ての小学校にスクールカウンセラー配置するように教育委員会で訴えてきた。
- ・子どもたちは中学生から様々な問題が表面化してくることが多いが、小学生の頃に両親や教師、子ども達がスクールカウンセラーと協力することにより、中学生になってから表面化する様々な問題が大きくなるようにしていくことが大切ではないかと考えている。
- ・県の予算の都合により、一度に県内の全小学校へスクールカウンセラーを配置することは難しいが、教育委員会でも県の財政当局や文部科学省へ働きかけているので、徐々にスクールカウンセラーを配置する小学校が増えていくのではないかと感じている。

義務教育課長

- ・県内の公立中学校については指摘のあったとおり、全校にスクールカウンセラーが配置されている。小学校については60校に配置となっており、全体の三分の一程度に止まっている。
- ・スクールカウンセラーが配置されていない小学校については要請してもらえればスクールカウンセラーを派遣して相談に応じる体制となっている。
- ・先ほど教育委員長が話したとおり、スクールカウンセラーへの需要は高く、今後も高まっていくと考えている。

- ・いじめや不登校だけでなく、教員や保護者の相談にも応じており、非常に活躍をしている
- ・スクールカウンセラーの配置については予算の都合もあるが、先日も文部科学省へ教育長と出向いてスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの配置拡大について陳情したところであり、配置する小学校を増やせるように努力している。
- ・スクールカウンセラーの配置については基準を設ける必要があり、その基準を満たしていない学校についてはスクールカウンセラーの配置ができなくなることもあり、ご迷惑をかけて申し訳ない。
- ・スクールカウンセラーの配置拡大については今後も努力していく。

4 養護教諭の配置増について

(質問・意見)

- ・保健室に勤務する養護教諭について質問したい。
- ・子ども達は教育委員長から先ほど話があったように教育とは別の視点を持つ大人の指導を求めることが多いと思う。
- ・山梨県ではありがたいことに高校の保健室にいち早く養護教諭の複数配置や、スクールカウンセラーも配置してくれたのでこれから社会へ出る子ども達に対して色々と心を寄せてくれているのだと感謝している。
- ・保健室に勤務する養護教諭もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも勤務状況は大変だと聞いており、学校に配置される人数はもっと多くてもいいのではないかと思う。
- ・個人的にはスクールソーシャルワーカーの配置人数をもっと増やしていただきたいと考えている。
- ・先ほど義務教育課長からスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの配置拡大について文部科学省に要請をしたという話を聞いたので、他の保護者にも教えたい。
- ・養護教諭についても他の教員と同様に定数が決められていると聞いており、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置人数を増やしてもらえれば、養護教諭の負担が軽減できると思う。
- ・養護教諭は保健室で行う業務が定められているが、個々の子ども達の対応をしていると他の業務がおぼつかないのが現状だと聞いているので是非お願いしたい。

義務教育課長

- ・スクールカウンセラーと同様に養護教諭についてもニーズが高まっている。
- ・現在の養護教諭はけがや病気の対応だけではなく、保健室登校といって教室で授業を受けられない子が保健室で勉強するとか、思春期の子どもからの相談業務等も担当しており、他の教員とは異なる感覚で子どもたちが接することができるという役割を担っている。
- ・指摘のとおり養護教諭にも定数があり、学校規模により配置ができない学校もある。
- ・養護教諭には一人で対応するのではなく、スクールカウンセラーや他の教員と連携してチームで業務にあたるよう要請しているところ。

5 文化施設の展示物の出張展示について

(質問・意見)

- ・本日配布された資料には県内の文化・芸術に関するものがいくつかあるが、仕事の都合で県内の文化・芸術施設に子どもを連れて行くことが出来ない。
- ・甲州市からだと子どもだけで施設に行くのは遠すぎるので、地区の公民館へ展示物を貸

し出して展示すれば子ども達が身近に芸術や文化に接することができるのではないかと思う。

- ・子ども達が芸術や文化に身近に接するための方法としてどのように考えているのか、また既に実施しているものがあるなら教えてほしい。

学術文化財課長

- ・指摘のとおり博物館は御坂町にあるが文学館や美術館、考古博物館は甲府方面にあるため富士・東部地域で一日教育委員会を開催した際にも同様の質問をいただいたことがある。
- ・できれば美術館や文学館、博物館へお越しいただきたいところだが、住んでいる地域の事情もあることは承知している。
- ・そこで、美術館や文学館、博物館の学芸員が各地域の学校現場へ赴いて出前授業を実施する取組を行っている。
- ・学校単位で美術館や文学館、博物館へ要請していただければ学芸員が展示物の一部を持参して出前授業を実施している。
- ・その他、美術館にはアートボックスというものがあり、本物の版画等を詰め合わせたキットを学校へ貸し出すという取組も行っている。博物館でも同様の取り組みを行っている。
- ・学芸員の出前授業や展示物の貸出については各施設に問い合わせをしていただき利用してほしい。

6 小規模校の部活動について

(質問・意見)

- ・大和中学校は小規模校であるため、必然的に部活動の選択肢が狭まり個人競技のみの状況となっている。
- ・部活動の選択がきっかけとなり、大和小学校を卒業しても甲州市内の他の中学校に進学するケースもある。
- ・高校では団体競技については複数の学校が合同でチームを編制して大会に出場しているという話を聞いたことがある。
- ・中学校においても学校を横断した練習や大会出場について検討していただきたい。
- ・また、所属する学校での部活動がメインになると思うが季節部的な方法で他校での部活動を検討しているようなら教えてほしい。

スポーツ健康課長

- ・学校が合同で大会に出場できるかということについてだが、大会によって扱いが異なると思われるが、現状であれば小中学校体育連盟が主催している学校単位で対抗する大会であれば、複数の学校が合同で出場するというのは難しいと考えられる。
- ・今後は少子化ということもあるので学校体育という枠組みから外れて地域競技スポーツという方向での検討も必要ではないかと考えている。

後日、小中学校体育連盟に確認したところ、県中学校総合体育大会、県中学校選手権大会、県中学校新人体育大会については、同一支部における2校であることを原則として、合同参加が認められております。

7 郷土学習について

(質問・回答)

- ・資料9ページの基本理念にある「子ども達が郷土に誇りを持つ」ということは非常に重

要なことだと考えている。

- ・資料7ページの「文化の振興」について、山や建物だけではなく、山梨県独自の伝統や歴史の紹介も行ふ必要があるのではないかと感じる。山や建物のみだと山梨県の良さが伝わりづらいと思う。
- ・大学進学等で他県へ出て、山梨へ戻ってこない人も多い中で、山梨に住んで良かったと感じ、他県に出ても山梨に帰りたいと感じさせるような文化の振興に努めてもらいたい。

学術文化財課長

- ・山梨県には国や県指定の文化財が多くあり、それを保存し活用する取組を実施しているところだが、一般県民に活動内容を紹介する機会が足りないと、今後は力をいれて実施していく必要があると感じている。
- ・現在、文化財を紹介する試みとしては、県のホームページで文化財の紹介ガイドというものを作成して紹介しており、他には本日配布した資料の「山梨の歴史ガイド」でも山梨の歴史について紹介している。
- ・文化財以外にも山梨県は多くの偉人を輩出しており、こうした先人達を紹介する取組として山梨近代人物館を開館したところであり、子ども達に来館してもらい山梨県ゆかりの先人達を知ること、子ども達の今後の指針になれば良いと考えている。
- ・その他の歴史、文化については博物館等で山梨ゆかりの武田信玄や富士山等について子どもでも分かるような形で企画展示するように進めており、子ども達が進学等で県外に出ても戻ってきたくるよう努めていきたい。

義務教育課長

- ・質問していただいたことは人口問題にも関係しているが、山梨県民が意外にも山梨県の良さを知らないのではないかと感じることもある。
- ・小中学校においては郷土学習教材を平成19年に策定し、小中学校へ配布している。
- ・教材の内容は小学校と中学校で異なるが、山梨県の自然、文化、産業について紹介しており、各学校で活用されている。
- ・今年度、来年度にかけて富士山の世界遺産登録やリニアモーターカー、南アルプスのエコパーク等の新しい話題を反映させた郷土学習教材の改訂を予定している。
- ・また、オリンピック、パラリンピックの開催が近づいている中で、新たに教材には英語表記も行い、子どもたちが英語で紹介できるような冊子にと考えている。

(休憩時間)

8 閉校した学校のグラウンドの活用について

(質問・回答)

- ・牧丘第二小学校は来年3月で閉校となり、牧丘第一小学校へ統合となる。
- ・先日、「競技場の建設、県ジレンマ」と書かれた新聞記事を見たが、牧丘第二小学校のグラウンドでは地域のお年寄りや子ども達のグラウンドゴルフ大会を頻繁に行っている。
- ・競技場が無いようならば、閉校した学校のグラウンドを活用して全県下での集まりを作ってほしいが、検討しているなら紹介してほしい。

スポーツ健康課長

- ・先般の新聞記事で「競技場の建設、県ジレンマ」とあったことについては、県民から新しい競技場の要望があり、現在検討中という内容の報道だった。
- ・したがって、競技場の建設が現在決定しているということではない。

- ・学校の空いているグラウンドの使用について、それぞれの競技の主催者が各学校に対して要望していただいで使用することになる。
- ・実際に高校のグラウンドについては、休日や夜間等の空いている時間帯については様々な活動に使用していただいている。
- ・競技によってはグラウンドの広さや形状、土の状態等による制約があるかと思うが、一部の学校のグラウンドは開放しているので、各学校へ相談していただきたい。

(質問・意見)

- ・私は地区の区長を兼ねているので、牧丘第二小のグラウンドで地区住民のグラウンドゴルフを実施するし、旧牧丘町住民が参加するグラウンドゴルフを実施することもあるので、競技場の建設をする場合は閉校したグラウンドも候補地として検討してもらいたい。

白川教育委員長職務代理者

- ・私は大月市の出身で、ご存じかもしれないが大月市では早くから小中学校の合併が進んできたという経緯がある。
- ・合併を進めていくなかで、いたるところで廃校となった土地に空きができるということになり、大月市の人口も減っていくなかで、廃校となった土地を利用して何らかの取組をしよう地域住民が市に対し活動しはじめている。
- ・競技場ほどの規模を持つ施設は大月市の場合は難しいが、廃校した学校の土地が地域住民のコミュニケーションやレクリエーション活動の場として活用されたり、カントリースポーツを振興する方達に利用されたりと、活動は広がりを見せており、様々なアイデアも出ているので、地域の方達がディスカッションすることが重要ではないかと考えている。

長田教育委員長

- ・就学年齢に達する前の子ども達の体力低下が著しいと実感しており、発達相談のため幼稚園や保育園へ行くと、子ども達が園庭を元気に走り回る姿をあまり見かけない。
- ・幼稚園生・保育園生の時に走り回る習慣が無いと、小学生になってからも同様となる。
- ・小学校に修学する前にどれだけ体を動かす経験をしたかということが重要で、そういった空きスペースがあるのであれば、ただ走り回るだけでも十分な全身運動になるので、子ども達が運動するスペースとして活用していく必要がある。
- ・先ほど話題に出た放課後の過ごし方、学童保育については県の中でも福祉保健部との分担があるが、各所属で一緒に行っていこうという動きもあるので、実際に県内に認定子ども園が続々と作られており幼稚園と保育園を統合する動きもある。
- ・就学前の子ども達も就学後の子ども達も放課後の過ごし方について、廃校となった施設で地域の活動が出来るということが有意義なのではないかと思う。

9 コミュニティスクールについて

(質問・意見)

- ・地域住民として子どもの教育に関わっていくことは大切なことだと思うが、地域全体で学校教育を支援する学校応援団の具体的な取組について質問したい。
- ・その中で地域、家庭、学校の三者が問題の解決を図るコミュニティスクールという文科省の取組があり、山梨県では昭和町と甲斐市で実施されていると聞いたが、峡東地域での実施状況について教えてほしい。

社会教育課長

- ・学校応援団とは学校で色々な授業をする際に地域人材にゲストティーチャーとして入っていただき、授業を進める際の力になっていただく取組になっている。
- ・先ほど、地域の子供達も県外に進学等でも出てしまっても山梨県に戻ってくるようにという話があった。
- ・社会教育課に勤務する前は双葉西小学校に勤務していたが、学校応援団の活動が活発な学校だった。
- ・教員がその地域のすばらしさを教える場合には、内容的に限界がある。しかし、その地域のことに詳しい住民がいて、そういった方から地域のすばらしさを子どもたちが学ぶことができれば、自身の地域に誇りを持つことができるということを推進するのが学校応援団の活動の一つとなっている。
- ・また、学校の勉強についていけない子どもがいた場合、退職教員が子どものフォローをして子ども達が興味関心を持って学習できるように支援するという取組もある。
- ・他には例えば家庭科の授業でミシンの使い方を教える際に男性の教師が一人でクラスの子供全員を指導するのは大変なので、地域の方や保護者に授業に入ってもらって全ての子供にも指導が行き渡るようにするという取組や環境整備活動等の取組もある。
- ・県内の各学校にアンケートをした結果、ほとんどの学校に学校応援団の活動に従事する方がいる。
- ・社会教育課では学校応援団の方々の組織化を目指しており、指導する内容ごとに部会を形成して組織的な支援活動を実施できるような体制づくりに努めている。

義務教育課長

- ・コミュニティスクールについて、聞き慣れない方もいるかと思うが、コミュニティスクールとは学校の経営に地域の方々にも参加してもらうという取組になっている。
- ・学校運営協議会を学校長と地域の代表、場合によっては市町村教育委員会の代表で組織し、学校の運営方針について学校長から説明して地域や市町村教育委員会の代表と協議する形式となる。
- ・学校運営協議会では協議するだけでなく、学校応援団でも説明があったように、地域の方に授業や行事へ参加していただいたり、出前授業を依頼することもあり、こういった活動を組織的に行うのがコミュニティスクールの概要となっている。
- ・山梨県内での活動としては、双葉西小学校が最も早く、昭和町では今年度全ての小中学校でコミュニティスクールを実施しており、加えて中央市の田富南小学校や南部中学校でも取組を始めている。
- ・峡東地域では、山梨市に実施の検討を行ってもらっている。
- ・国の教育再生実行会議では全ての学校をコミュニティスクール化するという提言もあり、新しい取組なので難しいところもあるが地域住民の協力を得て進めていきたい。

和田教育委員

- ・私は小学校の教員をしていたが、学校応援団という大きな組織ではなかったが、学校での子ども達の様子を理解してもらいたいということと、様々な問題を学校だけでは解決出来ないこともあるので地域の方や保護者に学校ボランティアという形で協力してもらったことがある。
- ・当初は学校に教員以外の人が入るということを懸念する向きもあったが、実際にやってみると教員ではできないことを地域の方に助けてもらえると教員からの評価も良好であった。それが、学校応援団やコミュニティスクールという形で進んできたことがすばらしいことと感じている。

- ・ただ、運営については難しいところがあり、たとえばボランティアへ依頼するにしてもボランティアを探す必要があり、その業務は学校では教頭が担当することになるが、教頭も大変多忙なため、そこで、社会教育課で地域のコーディネーターを育成しており、地域の方にコーディネートをしてもらうなど、少しずつ良い方向に進んでいるのではないかと思う。
- ・学校は地域の核であるので、地域の学校として子どもたちを見ていただくことによって、なかなかよその家の子どもに声をかけづらいという現状の中で、地域の方との挨拶もできるようになったという話も聞いている。
- ・休憩前の話に戻って申し訳ないが、先ほどのスクールソーシャルワーカーの話題について、峡東地域では2名のスクールソーシャルワーカーが配置されている。
- ・私は退職後、笛吹市の相談室に勤務しているが、相談室に来る発達障害や不登校の子どもを持つ家庭の状況をみると、家庭環境が複雑になっていることや、子どもの貧困についても山梨でも遠い話ではなく、峡東地区でも該当する子どもたちがかなりいる。
- ・そうした状況で、教員が家庭の中に入っていくことはなかなか難しく、福祉についての専門家でもないため、ソーシャルワーカーに入ってもらおうとスムーズに福祉につなげられる。峡東地区では2名しかおらず、ぎりぎりの状況なので予算の都合もあるが増やして行く方向で県でも力を入れていきたい。
- ・もう一点、スマートフォンの利用の問題で、家庭の中でルールづくりをという話があったが、不登校の子ども達の多くはゲームのめり込んでおり、睡眠時間を削ってまでゲームをしているので昼夜逆転の生活をしている。
- ・不登校でない子ども達の中にもゲーム時間の長い子どもがいる。
- ・仙台の医療センターの医師によると、現在の子ども達の脳の慢性疲労と肩こり、頭痛が25年前に比べて倍以上になっており、体だけでなく心にも大きな影響を与えると警鐘をならしている。
- ・私たちのころはテレビぐらいだったが、先ほどもいったとおりゲームにのめり込むあまり昼夜逆転の生活をして体を動かさないことが多く、ビデオについても安価にレンタルできるので夜更かしして見ることが多い。
- ・先ほど、スマートフォンについて家庭内でルール作りと併せて、ゲームやビデオについてもルール作りが必要で、早く寝て、朝は早く起きるという生活ができて、からだを動かすということができるような子どもにならないと、正しく学習に向き合えない。
- ・子ども達がきちんと社会に出ていくためには小学校あるいは小学校入学前から家庭内のルール作りをする必要がある。

10 戦争に関する教育について

(質問・回答)

- ・今年が戦後70年と言われており、本日は日航機が御巣鷹山へ墜落した事故から30年の日である。
- ・次世代へ戦争のことを伝えるということについて、私たちの世代でも分からないことがあるという状態になっている。
- ・次世代へ戦争のことを伝えていかななくてはならないと強く感じるが、私たちの世代は広島原爆ドームを見学する機会があった。
- ・最近の中学生は原爆ドームの見学をする機会がないということも聞いている。
- ・次世代へ戦争のことを語り継いでいくことについて、県ではどのように考えているのか。
- ・また、御巣鷹山へ日航機が墜落した事故についても、最近の若い人に聞いても今日がその日であることを知らないことが多いので、そういったことについても県ではどのように次世代へ伝えていくつもりなのか。

義務教育課長

- ・先日テレビの街頭インタビューで広島、長崎の原爆投下日や終戦記念日を若者に調査していたが、正答率が思いのほか低いので驚いたことがある。
- ・小中学校においては文部科学省の定める学習指導要領で指導内容が決められていて、これに基づいて各出版社が社会科の教科書を作成して生徒は学習しているが、最近の教科書は戦争等に関する記述が以前よりも増えている。
- ・市町村教育委員会ごと異なるが、学園祭で戦争等をテーマにした展示等を行う学校もある。
- ・学校応援団やコミュニティスクールの話が先ほど出たが、総合学習の時間に地域の戦争体験者の体験談を聞くという授業もある。
- ・他には各学校の代表が広島原爆犠牲者慰霊式典に出席するという取組を実施している。

高校教育課長

- ・高校についても、基本的に小中学校と同じ取組を実施している。
- ・高校の授業では世界史や日本史の授業で終戦となった1945年について在学中に学習する機会がある。
- ・しかし、授業で強調して説明しても一週間後に生徒に尋ねてみたり、定期テストの設問で回答させた際には忘れていたということがある。
- ・高校生になると授業で教わる知識の量が多くなるので、個々の知識が身に付かず実感として伝わらないということがあり、教える側の反省点となっている。

1.1 峡東地域の高校の統廃合、教員の負担軽減、防災教育、県歌の教育、文科省のパイロットプログラムへの取組について

(質問・回答)

- ・高校の統廃合について、東八代地域では石和高校と山梨園芸高校の統廃合が実施されたが、東山梨地域の日川高校、塩山高校、山梨高校についても統廃合を行う計画はあるのか。
- ・子どもを地域で育てるということについて、家庭と地域の教育力向上の話がでていますが、山梨県内の学校では教頭が地域の育成会の事務局やPTA事務局など本来の業務以外の担当も多く親としても非常に大変そうだと感じることもある。
- ・現場の教員が声を上げるのは難しいこともあり、市町村教育委員会が現状を変えるのも難しいと思うので、県全体の取組として地域で子どもを育てるということならば、学校を拠点にという話はあったが、地域のコーディネーターや公民館等へ事務局を移すようなことも県から指導をしてほしい。
- ・子どもの命を守るという事について、実践的防災教育を山梨県では進めているが、緊急地震速報はかなり有効だと思う。現在、このシステムが導入されているのはパイロット校のみなので、県内の全学校に導入してもらいたい。
- ・文化振興について簡単なお願いだが、「山梨県の歌」は県庁へ電話をした際の保留音でしか聞けず、私の世代でも歌える人が少ないので、せめて「山梨県の歌」と「富士山」は子ども達が歌えるように学校で教えてほしい。
- ・私は仕事の立場上、文科省の会議に出席する機会があるが、山梨県は文科省のパイロットプログラムへの取組は少ないと思うので、他県に誇れる山梨県となるように積極的にパイロットプログラムに参加してほしい。

新しい学校づくり推進室長

- ・高校再編については平成22年度に平成31年度までの10年間を構想期間として県立高等学校整備基本構想を作成した。
- ・構想では「魅力ある学校づくり」や「活力ある学校づくり」を掲げている。
- ・特に「活力ある学校づくり」において、今後、生徒数の減少が進んでいくなかで活力のある学校を維持していくには一定規模の高校が必要になるという意味で再編整備へ向かっている。
- ・現在は峡南地域の生徒数減少が著しいため、峡南地域の再編整備を進めている。
- ・峡東地域については、先ほど説明した整備基本構想上は当面の間は再編整備対象となっていない。
- ・生徒数の減少について、県では知事をはじめとして人口増加策に力を入れているところだが、生徒数の今後の推移については不透明なところもある。
- ・今現在の推計だと中学校3年生の生徒は今後6年間で1,000人程度減少し、さらにその後の9年間では1,000人減少する見込みとなっており、今後15年間で2,000人の減少が見込まれる。
- ・高校の再編整備については今後も生徒数の状況を見ながら進めていく必要がある。

社会教育課長

- ・学校応援団は県の事業名は学校応援団育成事業、文科省では学校支援地域本部事業とそれぞれ呼ばれている。
- ・この事業には3つのポイントがあり、1つは学校支援ボランティアにより、地域住民が学校を支援すること、2つめは地域コーディネーターが、学校からの要請に応じて学校支援ボランティアを学校に派遣すること、3つめは学校応援団実行委員会で教員と学校支援ボランティアが協議する機会を設けることとなっている。
- ・指摘のあった地域コーディネーターについて、学校応援団の活動は子ども達には喜ばれるが、教員は非常に多忙となる。そのため、地域コーディネーターに教員の役割をお願いしたり、例えば、新しい学校ボランティアを探すのは教員が行うと非常に大変だが、地域コーディネーターに任せるとスムーズに行うことができるということで、県としては各市町村や各学校へ働きかけをして教頭や教務主任ではなく、地域コーディネーターが活躍できるような体制づくりを進めていきたい。

義務教育課長

- ・防災教育については東日本大震災以降、色々な取組が実施されている。
- ・学校には防災訓練の実施等についてマニュアルが整備されているが、実効性のないものもあり、実際に発災した場合の行動については課題がある。
- ・先ほど指摘のあった実践的防災教育推進事業は、避難訓練を行う際に、予告無しの避難訓練を実施し、その際に、どう動いたかを確認するところをスタートにして検討するという取組がある。
- ・これは全県で発表会を行い、指定校の訓練の様子を各学校へお知らせしている。
- ・子ども達の命を守るというのは大変重要な取組なので、いただいた意見を参考に今後も進めていきたい。
- ・「山梨県の歌」について、学習指導要領の中には定められていないと思うが、先ほど説明した郷土学習教材に盛り込める可能性はある。
- ・郷土学習教材についても編集委員がいるので今私の一存で決めることはできないが、いただいた意見は編集委員に伝えていきたい。

阿部教育長

- ・山梨県のパイロットプログラムの取組状況は指摘のあったとおりの傾向にあると思う。
- ・文科省へ陳情というかお願いに行ったが、事務次官が山梨県出身者で「山梨県はもう少し事業を申請してくれれば応援ができる」と言われたことがある。
- ・これまで行ってきたことを積み重ねるといことも重要だが、国の動向を見て新しいことにチャレンジしていくことも必要だと考えている。
- ・例えば先ほど話題に出た学校応援団とコミュニティスクールは別物のように聞こえるが、地域住民の持つ教育力を学校に持ち込むにあたって、どのように組織化するかという点で双方の取組も同じものなので、最後は1つのものに収束していくと考えている。
- ・コミュニティスクールについて、国では全校に配置する動きで検討しており、最終的にどうなるのかはわからないが、山梨県も同じ方向で進めて行く必要があると考えている。
- ・もう1つの大きな流れとしては、教員の定数はクラス数等にに応じて定められているが、定数に加えて配置する加配という仕組みがある。
- ・この加配の配当は文科省がこういう事業に申請すればといった個別的に行う仕組みになっており、積極的に事業に取り組みれば教員を多く割り当てるという方法に変わってきているので、1人でも多くの教員を確保できるように取り組む必要がある。
- ・国の動向を見て、後から追うのではなく先を読んで今後の取組も進めていきたい。

飯室教育委員

- ・冒頭で教育長から説明のあった学力向上について、山梨県はまだ少し低い状況にある。
- ・秋田県や福井県は高いが、そのため山梨県では4月から学力向上対策監を設置して学力の向上に努めている。
- ・県教育委員会、市教育委員会、教員、PTAが一丸となって学力の向上に取り組んでいただきたいと思う。
- ・これからも教育委員会は前向きに色々なことに取り組んでいくので、熱心なご意見を寄せていただきたい。

野田教育委員

- ・私が子どもの頃は近所の大人によく怒られたし、やってはいけないことを近所の大人から教えられた。
- ・昔は家庭、地域、学校の三位一体となった教育が自然なかたちで連携ができていたのではないかと思う。
- ・やってよいことと悪いことを教えるのは、学校教育だけではなく、地域の連携が必要であると感じている。
- ・そういった意味でコミュニティスクールのような取り組みが広がっていけば、かつての家庭、地域、学校が三位一体となるような教育のベースができていくのではないかと思う。
- ・今後も皆さんの意見をいただきながら三位一体の連携を取り戻して、学校教育のベースとなるように進めていきたい。